

Branch atheromatous disease(BAD)

BADというタイプを知っていますか？これは、Branch atheromatous diseaseの略で、適切な日本語訳がないためBAD（ビーエーディー）と呼んでいます。脳梗塞のタイプは、これまで述べてきたような主な3タイプ（心原性脳塞栓症、アテローム血栓性脳梗塞、ラクナ梗塞）に加え、それらに分類されないもの（分類不能）を含めた4タイプに分けられますが、BADは分類不能タイプの中の一つです。

ラクナ梗塞は細い血管（せんつうし）の先っぽが詰まったことによる小さい範囲の脳梗塞です。一方、アテローム血栓性脳梗塞は太い血管が動脈硬化（血管の老化現象）で詰まる（もしくは非常に狭くなる）ことが原因の脳梗塞です。BADはちょうどその中間のタイプであり、太い血管は強く狭くなっていませんが、ある程度動脈硬化をきたしたことにより、そこから枝分かれする細い血管（せんつうし）が根元で詰まってしまい、ラクナ梗塞と比べて広い範囲で脳梗塞をきたしてしまいます。

症状は脳梗塞のできた場所により様々ですが、ラクナ梗塞と同じように、呂律の回りにくさ、手足のまひ、感覚の鈍さが主な症状です。症状の経過は、アテローム血栓性脳梗塞と似ており、発症後数日かけて徐々に脳梗塞の範囲が広がり、進行することが多いです（図1：発症時、図2：発症5日後）。そういう点ではBADタイプの脳梗塞は、経過が“Bad（悪い）”タイプの脳梗塞と言えるでしょう。当院の臨床データにおいて、BAD患者の急性期増悪は31%にみられ、注意を要する臨床病型と判断されます。

➤ 治療や予防はどうするの？

動脈硬化が強いアテローム血栓性脳梗塞と同じで、血液サラサラの薬（抗血栓薬）の点滴や内服に加え、動脈硬化の原因（高血圧、糖尿病、脂質異常症、喫煙、肥満など）をしっかりと管理する必要があります。

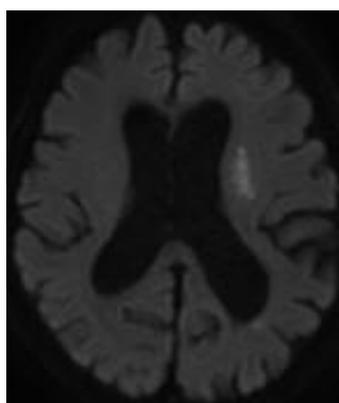


図1：発症時

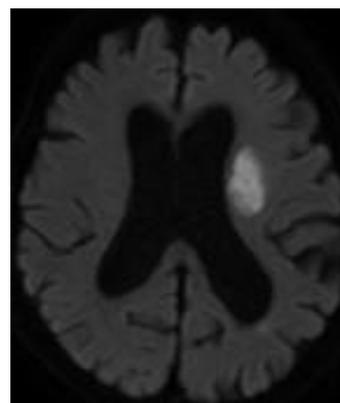


図2：発症5日目

（※ 頭部MR検査の拡散強調画像：白い部分が脳梗塞）